

くらみかわばたいせき

倉見川端遺跡

(寒川町 No.75 遺跡)

調査期間	20040901～20050228、 20061116～20070331
所在地	高座郡寒川町倉見 605 他
時代	弥生、古墳、平安 中・近世



作成日:20090619

概要

倉見川端遺跡の発掘調査は、さがみ縦貫道路建設事業に先立つ調査として行われました。事業全体としては南側に隣接する宮山中里遺跡および北側にある倉見川登遺跡とともに、発掘調査・出土品等整理作業を進めています。

遺跡は相模川の左岸の微高地(自然堤防)に立地していて、JR相模線に沿うようにして南北に細長く広がっています。おおむね宮山駅の北方から倉見駅の周辺までの範囲で弥生時代から近世の遺跡が広がっていることが確認されていて、このうち倉見地区南部に分布する範囲を、地名を基にして倉見川端遺跡と呼んでいます。

これまでに2004年度にはJR相模線の東側の地区を調査し、2006年度にはJR相模線の西側の地区の一部を調査しました。2006年度に調査したX区と呼ぶ地区は、JR相模線倉見駅の南側約400mに位置し、堤防と線路の間の細長い範囲です。この調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡、古墳時代前期の土坑、古墳時代後期の古墳跡、平安時代～中世の溝などが発見されました。特に弥生時代後期の竪穴住居跡は、狭い調査範囲の中で20軒もの数が重複して発見されました。調査区の幅が狭かったのでまるまる調査できた住居跡はありませんでしたが、繰り返して竪穴住居が作られていることがわかりました。この辺りが弥生時代後期の集



▲ X区 北部の全体写真



▲ X区 2号住居跡(弥生時代)

落の中心に近いことが窺えます。いくつかの竪穴住居跡では焼土や炭が床面上に堆積していて、火災にあったと考えられるものもありました。土器がまとまって出土した住居もあります。土器以外では、弥生時代後期の3号住居跡から鉄製品のヤリガンナが出土したことが特筆されます。発見された遺構の多くは、地割れによってその一部が壊されていました。この地割れは近世以降の地震によるものと考えられます。写真の竪穴住居跡にみられる細長い段差は、地割れによって壊れた部分です。

2004年度に調査したIV区と呼ぶ地区は、上述のX区とJR相模線をはさんで東側に当たる地区で、弥生時代後期の住居跡、古墳時代後期の古墳跡などが発見されています。IV区と前後して調査したⅢ区と呼ぶ地区は、宮山中里遺跡と隣接する地区で、弥生時代や平安時代の竪穴住居跡、古墳時代後期の古墳跡、中世の井戸や近世の溝、土坑などが発見されました。

倉見川端遺跡の調査はどの調査区も狭いために全容が明らかな遺構は少ないのですが、弥生時代後期を中心として濃密な遺構分布が明らかとなっています。



▲IV区 2号井戸かわらけ出土状況(中世)